

# 古代遺跡が語る 歴史ロマンの町

湖水地方の小さな都市ヤルヴァチ。

人々がのどかに暮らすこの町は、2012年にチッタスローに登録された。

時間がゆっくり流れる静かな町だが、壮大な歴史ロマンを秘めた遺跡がこの町を有名にしている。

トルコ南西部の山あい湖が点在する湖水地方は、溪谷に沿ってバラ園や果樹園、畑や牧場が広がる風光明媚なエリアだ。ヤルヴァチ(Yalvaç)は、湖水地方の中心都市であるウスパルタの北東に位置し、首都アンカラから南西へ約300km、車で約3時間半でたどり着く。南西にエイルディル湖、南東にベイシェヒル湖、そのすぐ近くには広大なクズルダール国立公園を擁し、雄大な自然に囲まれている。

しかし、この町を一躍有名にしているのは、なんといっても郊外に広がるアンティオキア遺跡だろう。トルコ南部の都市アンタクヤの旧名がアンティオキアで、それと区別するために正しくは「古代都市ピシディアのアンティオキア」と呼ばれる。セレウコス王朝(紀元前312~63年)の下で築かれた古代都市で、アンティオコス王(紀元前281~261年)、ガラテア王(紀元前39~36年)の各時代を経て、紀元前25年からは約200年にわたってローマ帝国の支配下となり、3世紀の終わりには主要都市へと発展した。その後、ビザンチン帝国に受け継がれ、宗教関連の遺跡が増えていくことになった。また、46年ごろには聖パウロと聖バルナバがこの地を訪れている。聖書に登場していることもあり、今なお訪れる巡礼者も多い。

古代都市の遺跡群では、数々のモスクや教会、寺院、劇場、競技場、橋、公衆浴場などを見て回りたい。いずれ

も建設と破壊が繰り返されており、現存するものの多くは再建されたものやその跡地だ。しかし、1693年に完成した浴場はすでに男女別に分かれているなど、遺跡としての価値は高いとみられている。

その歴史を裏打ちする数々の発掘品や美術工芸品などは、ヤルヴァチの考古学博物館で見ることができる。1966年にオープンしたこの博物館では、ローマ時代を反映した彫像や彫刻、絵画、ジュエリー、香水瓶などを展示したクラシックホールが見どころ。そのほかにも、700万~800万年前の哺乳類の化石や青銅器時代の出土品を展示した先史時代のホールや12世紀以降の地元のトルコ文化を展示したエスニックホールなどがある。

## 市街地と郊外で2つの楽しみ

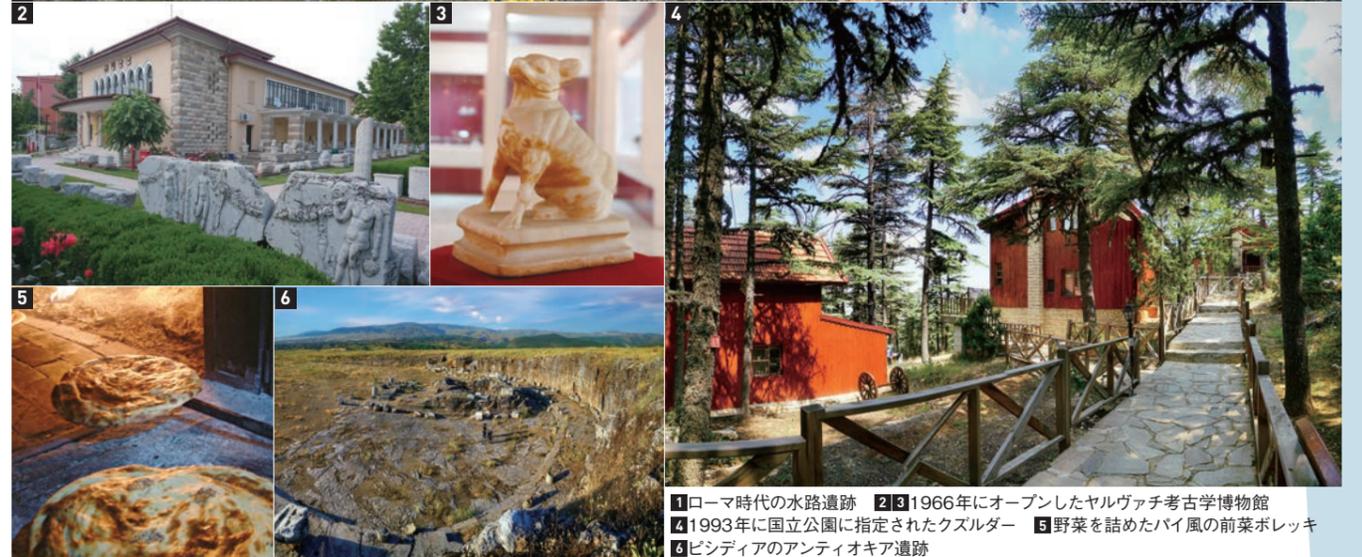
ヤルヴァチの市街地もぜひ散策してみたい。例えば伝統的な家屋を利用した「アクシェヒル・ブティック・ホテル」に足を踏み入れれば、そこはアンティークな中世の世界。趣のある小さな部屋に泊まるほうがこの町の雰囲気合うだろう。朝食が無料で提供されるほか、Wi-Fi環境が整備され、24時間対応のフロントデスクなど、サービスは近代的なので安心だ。

繁華街のショップでは、お土産として革やフェルトを使った衣料品や伝統

工芸品を見つけることができる。5月に行われる文化芸術祭では、市場に並ぶ有機栽培の食材や加工品を探すのも楽しい。また、町の東に位置するカラクユ丘は聖域とされており、この頂上から望む眺望は絶景と評判だ。

ヤルヴァチやウスパルタの郊外へ足を延ばして、豊かな自然を感じるのもいいだろう。1993年に国立公園に指定されたクズルダール国立公園は、ヤルヴァチの南東に位置している。トルコ屈指の景観といわれる巨大な杉林や固有種を含む動植物が生息する自然豊かなエリアだ。ここではデデギョル山へのトレッキングをはじめ、キャンプやピクニックを楽しむことができる。トルコ最長といわれる15kmのブナルギョズの洞窟もあり、冒険心を掻き立てられる。

ウスパルタの南東26km、エイルディル湖の南に位置するダヴラズ山は、スキースポットとして人気のエリア。全12トラックの滑走路は全長23.5kmにもなり、初心者から上級者まで、腕前に応じたコースでスキーやスノーボードを楽しむことができる。リフトでコースの上まで登ると、眼下にエイルディル湖の雄大な風景を望めるのも魅力的だ。



1ローマ時代の水路遺跡 21966年にオープンしたヤルヴァチ考古学博物館  
31993年に国立公園に指定されたクズルダール 4野菜を詰めたパイ風の前菜ボレッキ  
5ピシディアのアンティオキア遺跡

## 歴史あるリンゴ生産と伝統料理

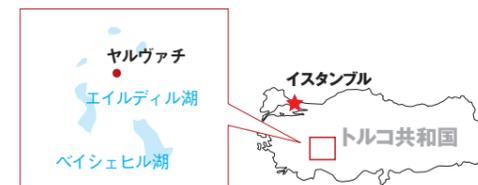
リンゴの歴史は古く、そのルーツをひもとくと、紀元前6000年ごろにトルコで炭化したリンゴが発見されている。現在、トルコのリンゴ生産量は、中国、米国に次いで世界第3位。なかでもウスバルタ県はリンゴの名産地として知られており、ウスバルタに近いヤルヴァチもしかり。気候や土壌がリンゴ生産に適しているため、1軒の農家で約50~1000本のリンゴの木を栽培しており、多くが家族経営だ。ヤルヴァチはまた、バナナやブドウの生産も盛んで、意外にもフルーツ

の町となっている。市街地にはしゃれたレストランも多いので、宿泊しない場合でも食事は楽しみたい。挽き肉やチーズ、野菜を詰めたパイ風の前菜ボレッキ(ペストリ)、麦や肉をミルクなどで煮込むお粥のようなケシケキ、マスのグリル焼きなどがおすすめ。コーンスターチと小麦粉で作られた薄い数枚の生地を温めた砂糖入りの牛乳をかけて食べるトルコを代表するデザート、ギュルラッチもヤルヴァチならではの味があるという。



ヤルヴァチ

# Yalvaç



チッタスロー (cittaslow) 「スローシティ」の意。地域独自の生活・歴史文化や自然環境など多様性を重視した町づくり活動。